



「多久から発信！SDGs」

「日本の未来を守るために」

東原 岸含 西溪校 9年1組 諸岡 莉桜

西溪校の文化整備委員会では、学校や地域の美化活動など様々なことに取り組んでいます。6月は、地域清掃ボランティアと校内清掃に取り組みました。地域清掃では、地域の方々にも一緒に活動していただき、西溪校の周辺や西多久町の清掃をしました。集まったゴミの中には、お菓子や飲み物のゴミが多くありました。このことは、道などで食べたり飲んだりしたゴミをポイ捨てしていると考えられます。自分たちの住む町を汚してしまいう行動にシヨックを受けると同時に、一人ひとりが行動を見直せば、きれいな多久の町を保つことができとも思いました。

清掃活動は、SDGs 17の項目の、11(住み続けられるまちづくりを) 15(陸の豊かさを守ろう)に当てはまります。環境汚染、地球温暖化が問題になっている今、これから社会を引っ張る存在である子どもたち、生まれてくる子どもたちにきれいな日本を残していくため、一人ひとりが協力して行動していくべきだと思います。

11月には、西溪校で第2回の清掃活動を予定しています。ぜひ、ボランティアとして参加していただけると嬉しいです。

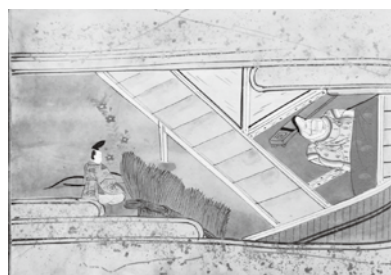


連載

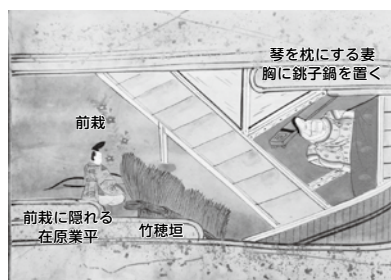
紫式部・和泉式部・小式部の物語 挿絵(5)

多久家資料『小しきふ(小式部)』を編集

『小式部(上)』挿絵5 在原業平の話



紫式部が和泉式部を呼び女房の振る舞いを教える中で、秋篠の里(伊勢物語筒井筒)の話をしました。



和泉式部は、平安時代中頃の歌人・作家で、『和泉式部日記』『和泉式部集』を残し、『小倉百人一首』にも和歌があります。二人の親王の求愛を受け、一条天皇の中宮藤原彰子に仕えました。藤原保昌と再婚し、夫の赴任地の丹後国で過ごしました。

物語は次のように続きます。和泉式部は、道命法師に和歌などを習っていたことで、男女の仲を疑われました。そこで、母の紫式部は、女房の振る舞いについて伊勢物語を取り上げ、和泉式部に教えました。

在原業平は秋篠の里に妻がいましたが、河内の女性の元へ通っていました。しかし、妻は妬む様子がなく送り出し、業平は不思議に思いました。ある夕暮れ前夜に隠れ、妻の様子を見ると、夜が更けて簾を巻き上げ、想夫恋という曲を弾きました。「風吹けば 沖つ白波 たつた山 夜半にや君が 入越ゆらん(風が吹くと 沖に白波が立つようにその立田山を夜半に君が たつた二人でお越えになるのでしょうか)と詠んで、胸の下燃えを休めようと、鉤子(鍋)に水を入れて胸の上に置くと湯に沸きかえりました。「挿絵5」この和歌に感動した業平は、走り出て「私はここにいます」と言い、妻を深く想い、それからは河内へは行かなくなりました。

これらの教えの最後に、伊勢物語だけでなく、源氏物語も詳しく習うように、物語は薦めています。

※原本の挿絵は色絵になっています。郷土資料館に写真を掲示していますので、お立ち寄りの際にご覧ください。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆朝顔のつる伸び柵を整えるまで
手を貸しくれし 夫も身まかる
川浪 信子

◆死ぬことさえ許されぬ我が身なり
車椅子の夫 残しては逝けぬ
梶原恵美子

◆運命を越えていくのが 運命だ
夢を夢では終わらせないさ
野崎 隆幸

短歌 《妻の芽短歌会 互選》

◆「平和の鐘」吟詠聴きつ 涙ぐむ
原爆投下 日本の戦禍
浦野 嘉恵

◆胃が物を言うことを知りぬわが存在
しておりとこの二三年
尾形 節子

◆大空に 梅雨明けの雷 ひびきけり
武富 律子

◆水打つて 草木に 生氣 よみがへる
大谷 和

◆風向きの 変はりて 匂ふ 花うつぎ
本村 則子

◆夏霧の 晴れゆく 先の 久住山
富樫 明美

◆空蟬を 観音堂に 預けたり
大石ひろ女

俳句 《大石ひろ女選》

◆エースの肩 メダルメダルと 重すぎる
高塚チカ子

◆へそくりが たし算忘れ 減るばかり
田代えみ子

◆花火師は 忍者のように 闇走る
大谷 和

◆クマ蟬は ワシワシワシと 自己主張
松下 修

◆らつきよ 昨は 企業ヒミツと 祖母ニヤリ
小副川ヨシエ

川柳 《多久川柳会 互選》